

# 平成 28 年度 自己評価結果を踏まえた学校関係者評価報告書

柴田町立東船岡小学校

1 評価期間 平成 28 年 12 月～平成 29 年 2 月

2 学校関係者評価委員（敬称略）

3 評価規準

○妥当である。	（適切な取組で、次年度へ向けての取組も妥当である）
○妥当でない。	（取組が不十分で、次年度へ向けての改善策も妥当でない。）
○判断することができない。	

※自己評価の数値の算出方法

教職員の自己評価で、A：大変良い・・・10点、B：良い・・・5点、C：課題がある・・・－5点、D：かなり課題がある・・・－10点とし、各項目の合計点数を教職員数で割った値。

4 評価項目

## 1. 地域に支えられ「地域と創る学校」づくりの推進

		自己評価	関係者評価
(1)	学校運営に対する地域住民・保護者等の参画と意見・要望の反映を図り、信頼される学校づくりに努めている。	6. 8	妥当である
(2)	学校の教育内容や実践を保護者や地域に積極的に公開し、開かれた学校づくりに努めている。	8. 9	妥当である
(3)	保護者の支援や地域の教育力を生かし、学校の教育活動の一層の充実を図っている。	8. 4	妥当である

自己評価結果から次年度へ向けて

学校関係者による主な意見

(1) 本校がコミュニティ・スクールであるという自覚が教職員の中に浸透しているため、各種行事においても地域と共にという視点で活動にあたっている。さらに、新しい学校を創る集いや生徒指導問題対策委員会、PTA 各種委員会等において、情報交換や意見・要望等の収集を行い、学校運営に反映している。

(2) 各種行事への参加の呼びかけ、フリー参観、学校、学級便り等の発行など情報を提供し、開かれた学校づくりに努めている。授業参観やその他行事等を通して積極的に地域に公開している。また各種便り等の他、東船岡小日記（ブログ）を通して、地域に積極的に情報発信をしている。（ブログのことは5名の職員が記載）

⇒ 次年度も積極的に保護者に教育活動を公開したり、ホームページ等で紹介したりする機会を設けていく。

(3) 運動会や秋祭り等において、保護者や地域の人々と協力して開催したり、学習ボランティアを積極的に活用したりして、教育活動の充実を図っている。学校田、子ども見守隊、授業への協力（ゲストティー

(1) 昨年度の評価と照らし合わせてみた。職員が変わっても学校に対する評価が変わらないのは、職員が一致団結して取り組んでいる結果である。特に子どもたち一人一人の悩みを組織で共有して考えている点が素晴らしい。いろいろな取組がなされ、それが伝統となって学校全体がうまくいっていることが分かった。学校の良さが生かされている。これからも継続してほしい。

チャー)等でたくさんのご支援を受けており、感謝の念が尽きない。

☞ 次年度も地域の教育力を活用するとともに、町で推進している「しばたっ子応援団」や仙台大学との連携も深め、教育活動の活性化につなげるように努めていく。

## 2. 「学力向上」と学習指導要領の趣旨の徹底

		自己評価	関係者評価
(4)	「学力向上」を目指して、指導方法の工夫・改善を図るとともに、個性を生かした楽しく分かる授業の実践に努めている。	6. 3	妥当である
(5)	学習意欲の向上と生活習慣・学習習慣を改善し、主体的な学習を促して基礎学力の向上に努めている。	6. 1	妥当である
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者による主な意見	
(4)	「ねらい」「まとめ」「振り返り」など、宮城県の「学力向上に向けた5つの提言」を確実に取り入れ、分かる授業の実践に努めている。	(4) 数学のノーベル賞と言われるフィールズ賞をとった先生の著書に、「教育とは自信を付けさせることである。わずかな自信を持ったことでもそれをきっかけに伸ばしてあげることが大切だ」と書かれていたのを読んだ。励ますことが何よりも自信を付けさせることにつながり、それが一番、教育効果を発揮することにつながるものと考えている。	
(5)	CDTの学力調査において8割以上の達成を数値目標に掲げ、基礎的・基本的な内容の定着を主眼として各学年で積極的な取り組みが見られる。また、望ましい生活習慣についても、便り等も含め、家庭にも啓発活動を行ってきた。		
☞ 今年度から到達度テストを2学期に行い、その結果により定着状況の把握と確実な定着のための指導に力を入れている。3月には確実に定着したか、再度、確認のテストを行い、進級・進学させることを全職員で確認した。			

## 3. 豊かな人間性を育む道德教育の充実

		自己評価	関係者評価
(6)	「道德の時間」の実実施時数の確保と指導方法の工夫改善を行い、道徳的実践力を高めるとともに、教育活動全体を通じた道徳的実践意欲の向上に努めている。	3. 9	妥当である
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者による主な意見	
(6)	1月末現在、道德の時間の確保は全学年でできている。学級の実態に応じ、重点的に指導する価値項目もあるようだ。	(6) 「感謝に敵なし。反省に終わりなし。」という言葉がある。相手を思う心は感謝の心へとつながる。相手に対する気遣いの心を持たせる指導が大切である。また、子どもたちの体内時計を育て、家庭での生活リズムを確実に定着させることが重要である。子どもたちに自信を付けさせる言葉、ハッと心に響く言葉を投げかけ、努力を認めてあげるとよい。	
☞ 次年度は、より一層、たてわり活動や児童会活動の活性化を図り、児童が話し合うことで、よりよい集団・学級を作っていこうとする意識を高めていく。そのことが、道徳的実践意欲の向上にもつながるものと考えている。			

## 4. 生命の尊重と社会性の育成を図る生徒指導の充実

		自己評価	関係者評価
(7)	「いのちと心を大切にすること」及び「良好な人間関係をつくること」が重要であるという共通認識のもと、いじめや不登校のない学校づくりに努めている。	7. 4	妥当である
(8)	児童生徒の発達段階にふさわしい生徒指導を推進し、家庭と連携して基本的な生活習慣の育成に努めている。	6. 3	妥当である

(9)	児童生徒に自己の特性を理解させるとともに能力・適性や興味・関心等に基づいて将来の生き方を考えさせる志教育・キャリア教育の充実に努めている。	4. 5	妥当である
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者による主な意見	
<p>(7) 各学級で授業を公開し、「いのちの大切さ」を伝えることに努めている。いじめや不登校がないよう、日ごろより全職員が一丸となり、対応している。児童会で行っているあいさつ運動、いじめ防止の掲示や学級での標語づくり、人権擁護委員を講師に招いての人権教室など、いじめ等の防止に積極的に取り組んできた。</p> <p>(8) 生徒指導では素早い対応ができています。基本的な生活習慣の確立、帰宅後の時間の過ごし方については、家庭と連携しながら取り組んでいく。</p> <p>☞ 生徒指導主任のリーダーシップの下、教員間で情報を共有し、共通認識がしっかりとできています。</p> <p>(9) ギタリストなど外部講師を招いて、夢を持たせ、将来の生き方を考えさせる取組を行ってきた。</p> <p>☞ 各教科や特別活動等との関連をもたせた指導を意識し、教育計画位置付けて取り組んでいく。</p>		<p>(7) 不登校の子どもたちが全員登校できるようになるなど、学校を挙げての取組の成果が見られる。学習や体力は個人差があるが、命に関わることだけは個人差はなく、絶対に見逃してはならない。児童アンケートで、「学校が楽しいですか」という設問に対して低い評価をしている児童については、その原因をはっきりさせ、児童の心を開くまでかかわっていく努力をすることが大切である。</p> <p>(8) 社会性の育成のためにも仙台大学が行っている事業に児童がもっと参加するとよい。</p>	

## 5. 安全・安心な教育環境の整備・促進

		自己評価	関係者評価
(10)	児童生徒の安全に対する意識を高めるための指導や「防犯教室」等を実施して児童生徒の安全確保に努めている。	6. 3	妥当である
(11)	地震災害等を想定した「避難訓練」「引き渡し訓練」「防災教室」を実施し、児童の防犯意識を育てている。	8. 9	妥当である
(12)	「子ども見守隊」「安全パトロール隊」など地域の支援を受けて、通学路の安全確保や地域の巡回などを行い、事故や事件の被害を未然に防止している。	8. 2	妥当である
(13)	生涯体育・スポーツの視点に立ち、健康でたくましい児童生徒の育成に努めている。	5. 8	妥当である
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者による主な意見	
<p>(10) 児童や職員を対象に警察署から講師を招き、防犯教室や実践的な研修を行っている。</p> <p>(11) ショートの訓練等で、いろいろな場面を想定した訓練を行っており、児童が自然災害等から自らの身を守る意識が育っている。(4名の職員が記載)</p> <p>☞ 次年度も様々な想定でショートの避難訓練を各学期で効率的に行うことにより、安全な避難の仕方がしっかりと定着するように指導していく。</p> <p>(12) 児童の下校時刻に合わせて、いつも立ってくださっている地域の方々に頭が下がる。児童が安全に下校できているのは、地域の方々のおかげだ。</p> <p>(13) 外遊びを奨励し、進んで体を動かす児童の育成ができた。体力づくりに対する取り組みを学校全体で推進した結果、全体の約75%で全国平均を上回り、昨年度の課題であった握力は、かなり改善が見られた。</p> <p>☞ 今年度の課題である「投力」「柔軟性」については、週3時間の体育の授業の中で、体づくり運動を継続的に</p>		<p>(12) 地域の方々が見守ってくれていると思うと安心感がある。不審者への抑制力にもなっている。下校時に通学路でない田んぼのあぜ道を通っている子がいるので、声掛けをしている。</p> <p>(12) 高齢の方が多く、「見守りタイ」が一人もいない地区があり、通学路の安全にはまだ問題がある。保護者の方々と「見守りタイ」の方々の距離がもっと縮まればよいと感じている。</p>	

うことで、次年度は、全学年、体力・運動能力調査で全国平均を上回る得点を目指していく。

## 6. 特別支援教育の充実

		自己評価	関係者評価
(14)	特別支援の指導体制が整っており、特別な支援を必要とする児童生徒のニーズに応じた指導を行っている。	4. 5	妥当である
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者による主な意見	
(14) 学習支援員、学生ボランティアの積極的な活用等により、特別な支援を必要とする個々の児童のニーズに応じた指導・支援に努めている。支援計画を明確に持ち、職員で情報共有をしながら支援する体制を整えていく。			

## 7. 国際理解教育の促進

		自己評価	関係者評価
(15)	自国文化に対する理解を深めるとともに、他国文化に学ぶ国際理解と国際化に対応した教育の推進に努めている。	5. 3	妥当である
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者による主な意見	
(15) 全学年、生活科や総合的な学習の時間にALTとふれあい、交流を図ってきた。また、国際交流会は、外国への興味を高めるきっかけともなった。 ☞ 次年度は、「英語活動」を1～4年生でも行っていく。3・4年生については、今年度、好評だった国際理解交流協会を次年度も実施し、いろいろな国の方を招いて交流を図る学習を実施する。			

## 8. 情報教育の推進及び学校図書館の充実

		自己評価	関係者評価
(16)	高度情報化社会に適切に対応していくことができるよう、各教科に応じた情報活用能力の育成を目指す情報教育の推進に努めている。	5. 0	妥当である
(17)	学校図書館を整備し、児童生徒の読書活動の充実に努めている。	7. 1	妥当である
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者による主な意見	
(16) 町で児童用パソコンやネットワークの充実を図っていただき、学習効果を上げることができた。教職員自身が率先して授業場面において積極的に活用している。 (17) 読み聞かせや本の紹介など児童の読書意欲を高める取組を行ってきた。本校は、図書ボランティアが充実しており、読み聞かせ、掲示物作り等の支援が、たいへんありがたかった。さらに、毎週、定期的に来ていただいている町の図書館司書の尽力もあり、児童への読書指導や図書室の環境整備の充実が図られた。半面、利用できる時間が限られており、児童が自由に利用できないという課題も出た。 ☞ 学校評価の数値が向上しつつあるものの本校の課題である。本校の特色ある取組である「多読賞」は、今後も継続し、児童の読書意欲を高めていく。さらに、次年度は、①図書貸出の時間を増やすこと、②朝会での各学年の		(16) 町でも情報機器や端末を導入して下さっているようなので、今後より一層、数値が向上するものと期待している。 (17) 読書は時間の問題ではなく、習慣の問題である。着実に成果が上がってきている背景として、司書や図書ボランティアの力が大きいと感じる。	

年間最多読児童の表彰すること、③全学年でブックトークを実施することの3点に力を入れて取り組むことを全職員で確認した。
--

9. 学校校地の自然環境の整備と自然体験学習の推進向上		自己評価	関係者評価
(18)	校地内に花と緑の潤いのある教育環境をつくとともに、児童生徒の自然体験学習の充実に努め、自分たちの住んでいる地域の自然環境を守り大切にしようとする心の育成に努めている。	6. 1	妥当である
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者による主な意見	
(18)	畑の収穫も増え、日常的な世話の大切さをあらためて感じた。次年度も、計画的に潤いのある教育環境の整備に努めていく。緑を大切にしようとする意識を高めることができたが、持続させることが課題である。		

10. 教職員の資質及び指導力の充実・向上		自己評価	関係者評価
(19)	教職員の自己研修を促し、指導力向上を図るとともに、学校課題の解決を図る校内研究・校内研修を積極的に推進している。	6. 1	妥当である
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者による主な意見	
(19)	校内研究では、全員が研究授業を見合い、授業力の向上に努めた。また、ノート作りの約束など、全校で統一して授業に取り組むことができた。学年部を中心に組織的に研究に取り組むことができています。校内研修では、防犯、防災の研修など、多岐にわたる研修を行ってきた。 ☞ 次年度は、外国語活動を校内研究として取り組み、組織的・計画的に研修を行うことにより、指導力の向上を図っていききたい。		(19)「子を持って知る親の恩。教え子を持って知る教師の難しさ。」という言葉がある。一般的に、教える側が育たない限り、教わる側も育たない。共に育っていくという「共育」の意識を大切にしていだきたい。

11. その他		自己評価	関係者評価
(20)	子供たちと一緒に話をしたり、教育相談をするなどのふれ合う機会を多くつくっている。	7. 9	妥当である
(21)	子供たちは学校へ来るのを楽しみにしている。	7. 6	妥当である
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者による主な意見	
(20)	今年度は、休み時間に一緒に外に出て子ども達とふれあう教員が増えた。子どもたちもそれがうれしくて積極的に外遊びをしている様子も伺える。		(21)人間の持っている能力は、様々な環境の下、磨かれる。周囲の人間が良き環境をつくるのが大切である。
(21)	「学校に行くのが楽しい」と答えている児童が7.8ポイント(10ポイント満点)であった。楽しくないと答えた児童には、個別に原因を探り、ケアに努めてきた。 ☞ 今後も教職員全員が児童に丁寧に対応し、一人一人の良さを伸ばしていくことで、次年度は「学校が楽しいと感じる児童」が、「9ポイント以上」を目指す。		

## 12. 教育目標について

		自己評価	関係者評価
(22)	教育目標教育目標「いのちを大切にし、共に個性の伸長を図り、進んで学ぶ児童を育てる」が、学校の教育活動において具現化されている。	6. 6	妥当である
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者による主な意見	
(22) 教育目標の最初にいのちを大切にする…とあるように、どんな教科の授業より「命の授業が大切であること」を、ぜひ認識し優先し指導していきたい。 ☞ 年間1回以上は、全学級で命に関する授業を参観等で公開する。			

### ◆その他:学校関係者による主な意見

- ・ 言葉を使って生活しているのは人間である。感謝の言葉を感じ取れる感性を大切にしていきたい。たった一言が人の心を傷つけるし、人の心を温めることもできる。家族の子に投げかける言葉で良い心が育ったり、ダメになったりすることもある。言葉の重みを大切にしていきたいものだと考える。また、家庭での生活習慣の定着についての良い新聞記事（読売新聞掲載のお手伝い生活力を育むという記事）を持参したので、読んでいただければと思う。
- 関係者評価委員会後に、職員全員に紹介したところ、早速、学級だよりで保護者に紹介した担任も見られた。